渡部昇一著「かくて昭和史は甦る」クレスト社、1995 年 5 月 15 日刊を読む

日本が誇るべき文化とは

今後、われわれはどのような道を進むべきか。

１．（１）今後、われわれが志さねばならないのは、**文明のみならず文化の点においても、世界から仰(あお)ぎ見られるような国になる**ということであろう。

それは可能であろう。

（２）現時点においても、われわれは**他国に誇れる文化**を持っている。

（３）身近なところで言えば、**治安がよいということも文化のひとつ**である。およそ、世界中のどこの国を探しても、**女性が夜間に安心して歩ける**ところは、あまりない。あるいは、**町中で財布を落として戻ってくる可能性のある国**も、日本ぐらいである。

２．（１）さらに、日本人は、**形のないものに無限のエネルギーを注ぐことに喜びを見出すことができる民族**である。

（２）そのことは**茶の湯**を見ても分かるであろう。お茶を飲むという行為は、どこの国にもある。しかし、それを**芸術として洗練し、精神を鍛(きた)えるための方法論にまで発展**させたのは、世界中を見渡しても日本しかない。華道もまたしかりである。

（３）あるいは、**俳句の普及**というのも、その一つである。**自然を眺(なが)めて、そこから得た感興を定型詩に結晶させる**ことのできる人が、日本には何百万人もいる。こんなにアマチュア詩人の多い国は、これまた日本だけである。もちろん、**和歌の伝統**は、日本の歴史とともに古い。

３．（１）しかも、**日本人はかくも文化水準の高い暮らしを、江戸時代以来ずっと続けてきた**。これは世界に誇れることである。

（２）**日本人が江戸時代以来、高度な文化を持っていた**ということは、外国人の研究家も認める事実である。スーザン・ハンレーという日本学者は、19 世紀半ばの日本人とヨーロッパ人の生活水準を詳細に比較検討した結果、次のような感想を記している。

「1950 年の時点で住む場所を選ばなくてはならないなら、私が裕福ならイギリスに、労働者階級であれば日本に住みたいと思う」

（３）**江戸時代から、日本の民衆は、まさに世界においてもトップクラスの生活をしていた**のである。これは上流階級の生活レベルが高いことよりも、ずっと誇れることであるのは、言うまでもない。

P356 ～ 357

＜コメント＞

日本が誇るべき文化とは何か。身近なところからじっくり探し出し、自分に一番合ったものに挑戦。時間をかけて深めていきたい。渡部先生のおっしゃるように、江戸時代に遡って、誇るべき文化を考えるのも興味深い。

2021 年 10 月 10 日（日）林明夫